

令和2年度島根県学力調査結果
(益田市概要)

益田市教育委員会

I 調査の実施について

1 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握することを通して、益田市小中学校における学習指導上の課題の改善状況を明らかにし、今後の教育施策の充実及び学校における指導の一層の改善に資する。

2 調査実施日

令和2年12月8日(火)

3 実施校数・学年・教科等・人数

校種	実施校数	学年	教科に関する調査(人)			生活・学習に関する意識調査
			国語	算数 数学	英語	
小学校	15校	5年	390	390		393
		6年	379	379		381
中学校	9校	1年	372	369	372	374
		2年	401	401	401	400

II 用語

- 「正答率」 … 各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合(%)を島根県または益田市単位で平均した値
- 「領域」 … 各教科の学習内容を系統的に示したもの。
例えば、算数では「数と計算」「図形」など。

III 公表について

1 公表の内容

教科及び生活習慣や学習意識等に関する調査結果について、益田市全体の結果

2 公表結果に関する留意事項

- ◇本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力や生活意識等の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎないこと。
- ◇本調査における正答率1ポイントの差は、正答数に換算すると0.13問～0.25問の差に過ぎないこと。したがって、数値の細かな差のみに着目するのではなく、全体の傾向を大きく捉えたり、無解答率や誤答等も含めて、成果と課題を丁寧に捉えたりすることが必要である。

IV 結果の概要

1 教科に関する調査

(1)各教科の正答率

小学校については、今年度より学習指導要領改定により領域の区分が変わったため、比較データがありません。

益田市、島根県の数値の単位：％(小数第2位を四捨五入)

○ 益田市の平均正答率が島根県の平均正答率よりも3ポイント以上 上回るもの

島根県と益田市の比較の単位：ポイント(小数第2位を四捨五入)

▽ 益田市の平均正答率が島根県の平均正答率よりも3ポイント以上 下回るもの

小学校 国語

学年	項目	R2			R1	H30	H29
		益田市	島根県	比較ポイント	比較ポイント	比較ポイント	比較ポイント
小5	教科総合	59.2	60.6	-1.4	-2.3	＼	-0.2
	言葉の特徴や使い方に関する事項	61.9	64.6	-2.8	＼	＼	＼
	情報の扱い方に関する事項	31.9	31.8	0.2	＼	＼	＼
	話すこと・聞くこと	67.4	69.1	-1.7	-1.8	＼	-2.1
	書くこと	49.4	46.0	○ 3.4	-4.4	＼	-0.6
	読むこと	58.1	60.4	-2.2	-2.9	＼	0.6
	教科総合	59.8	62.7	-2.9	-0.9	-0.5	0.3
小6	言葉の特徴や使い方に関する事項	59.0	61.8	-2.8	＼	＼	＼
	情報の扱い方に関する事項	43.7	45.7	-2.1	＼	＼	＼
	話すこと・聞くこと	67.6	68.7	-1.1	1.6	0.6	0.6
	書くこと	48.2	51.6	▽ -3.5	-0.2	0.2	-0.9
	読むこと	66.5	69.9	▽ -3.4	-3.0	-2.2	0.1

小学校 算数

学年	項目	R2			R1	H30	H29
		益田市	島根県	県比較ポイント	比較ポイント	比較ポイント	比較ポイント
小5	教科総合	62.0	57.6	○ 4.4	0.7	＼	-1.0
	数と計算	67.0	64.0	○ 3.0	4.1	＼	-1.0
	図形	63.0	54.9	○ 8.2	＼	＼	＼
	変化と関係	65.5	61.7	○ 3.8	＼	＼	＼
	データの活用	22.1	17.0	○ 5.2	＼	＼	＼
小6	教科総合	67.4	62.9	○ 4.5	4.2	5.0	-0.2
	数と計算	69.2	65.3	○ 3.9	5.7	6.7	-0.4
	図形	67.3	62.3	○ 5.0	＼	＼	＼
	変化と関係	48.3	40.7	○ 7.6	＼	＼	＼
	データの活用	＼	＼	＼	＼	＼	＼

中学校 国語

学年	項目	R2			R1	H30	H29
		益田市	島根県	比較ポイント	比較ポイント	比較ポイント	比較ポイント
中1	教科総合	67.3	70.9	▽ -3.6	-2.3	-4.2	-4.5
	話すこと・聞くこと	79.4	78.0	1.5	1.5	-0.1	-2.9
	書くこと	55.0	59.8	▽ -4.8	-5.6	-5.5	-3.5
	読むこと	65.6	69.2	▽ -3.6	-4.3	-6.4	-5.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.4	76.9	▽ -4.5	-1.6	-4.0	-5.1
中2	教科総合	63.6	68.0	▽ -4.4	-1.1	-3.4	-3.9
	話すこと・聞くこと	60.7	65.0	▽ -4.4	-2.2	-5.3	-4.3
	書くこと	58.1	60.6	-2.5	-2.6	-2.0	-4.8
	読むこと	55.4	61.3	▽ -5.8	1.5	-1.3	-2.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.4	76.5	▽ -4.1	-1.6	-4.4	-4.0

中学校 数学

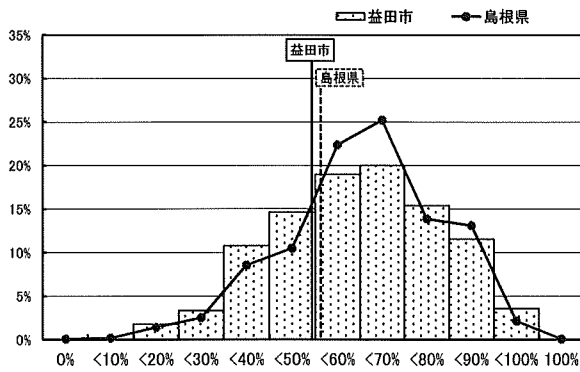
学年	項目	R2			R1	H30	H29
		益田市	島根県	県比較ポイント	比較ポイント	比較ポイント	比較ポイント
中1	教科総合	53.6	57.4	▽ -3.8	-6.1	3.1	-2.8
	数と式	54.3	59.5	▽ -5.2	-6.8	5.1	-2.9
	図形	66.5	70.2	▽ -3.7	-3.8	2.7	4.1
	関数	47.8	49.6	-1.8	-8.1	2.4	-2.4
	資料の活用	＼	＼	＼	-2.0	1.1	-7.9
中2	教科総合	48.2	56.2	▽ -8.0	-2.3	-1.0	-1.6
	数と式	46.2	55.8	▽ -9.7	-3.5	-1.6	-0.9
	図形	61.1	65.8	▽ -4.8	0.2	1.2	-1.4
	関数	42.5	50.8	▽ -8.3	-2.2	-1.1	-1.4
	資料の活用	＼	＼	＼	-1.7	1.0	-2.9

英語

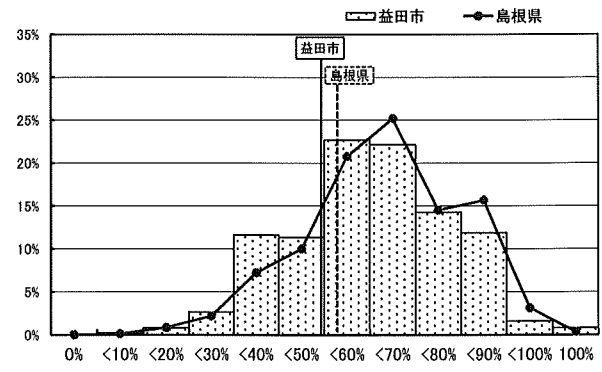
学年	項目	R2			R1	H30
		益田市	島根県	比較ポイント	比較ポイント	比較ポイント
中1	教科総合	60.2	62.4	-2.2	-6.9	＼
	聞くこと	69.9	70.3	-0.4	-6.8	＼
	読むこと	57.0	59.5	-2.5	-3.1	＼
	書くこと	56.5	59.8	▽ -3.3	-9.3	＼
中2	教科総合	47.8	54.4	▽ -6.6	-2.6	-3.0
	聞くこと	61.0	67.3	▽ -6.3	-2.9	-1.5
	読むこと	47.5	53.9	▽ -6.3	-3.1	-3.1
	書くこと	35.0	41.8	▽ -6.8	-2.2	-3.6

(2) 各教科の正答数度数分布

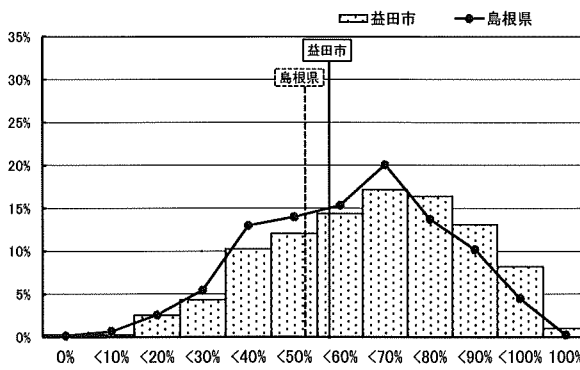
小学5年 国語



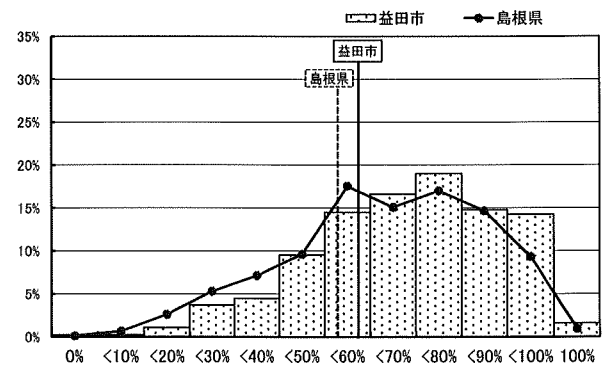
小学6年 国語



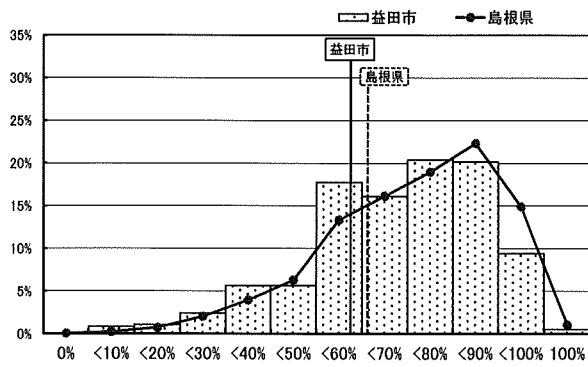
小学5年 算数



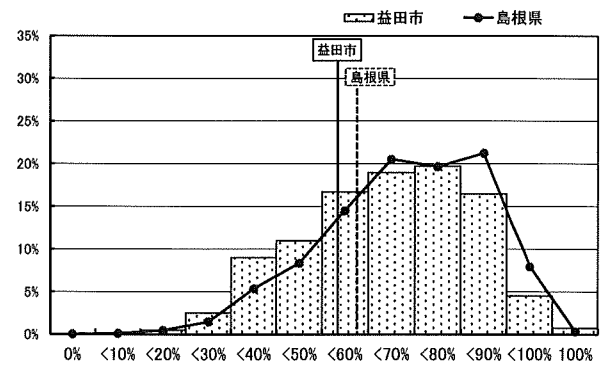
小学6年 算数



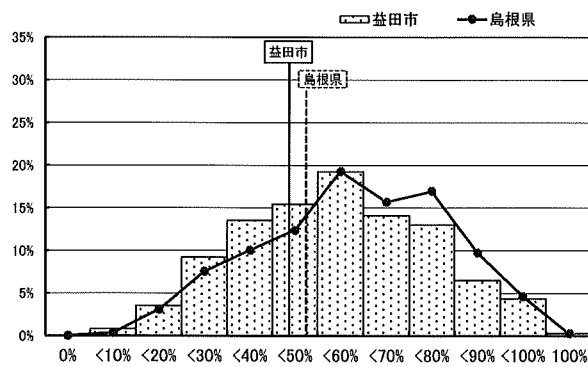
中学1年 国語



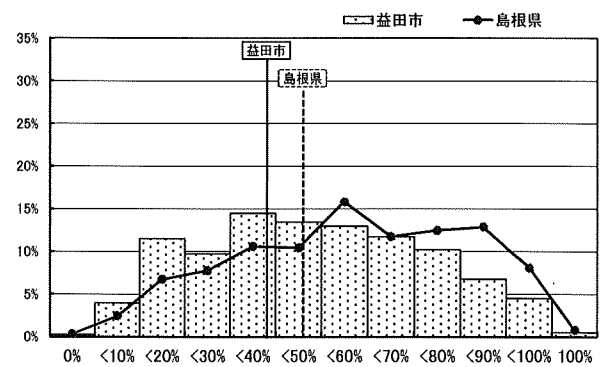
中学2年 国語



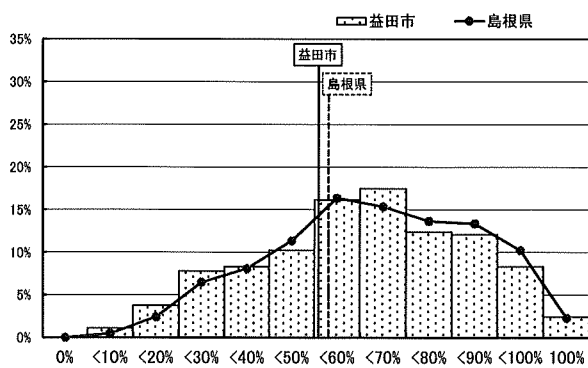
中学1年 数学



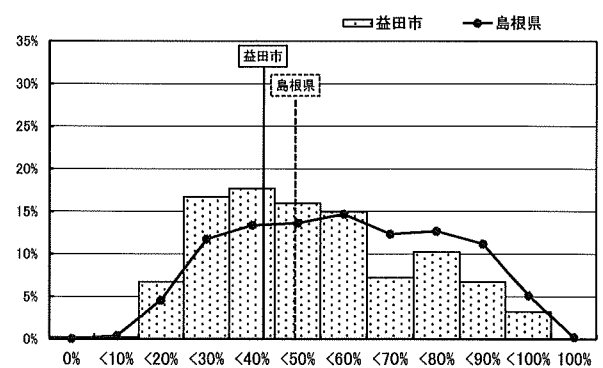
中学2年 数学



中学1年 英語



中学2年 英語



(3) 各教科の設問に見られる成果や課題の概要

○: 県平均正答率を上回った設問

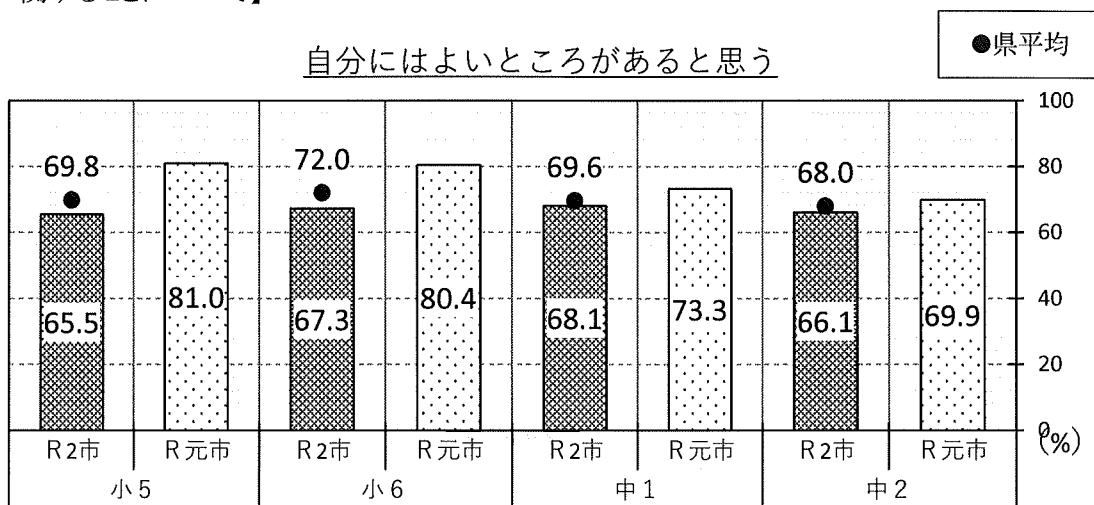
▲: 県平均正答率より、5ポイント以上下回った設問

学年	教科	設問と評価
小5	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。 ○自分の意見を明確にして書いている。 ○自分の意見を支える理由を明確にして書いている。 ▲文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ○奇数について理解している。 ○小数の除法において、除数による、被除数と商の大小関係を理解している。 ○小数の乗法でも分配法則が成り立つことを理解している。 ○小数第一位÷小数第一位の除法の式に合った文章問題を選んでいく。 ○小数の除法(小数÷純小数)の文章問題を図に表している。 ○立方体の体積を求めることができる。 ○合同な三角形を作図できる条件を理解している。 ○比例の関係を理解し、一方の値に対応する他方の値を求めることができる。 ○伴って変わる2つの量の関係を表した表を見て、比例関係にあるものを選ぶことができる。 ○合同な三角形の、対応する角について理解している。 ○敷き詰め模様を使って、四角形の角の和の求め方の説明を基に、五角形の角の和の求め方を説明している。 ○問題の場面を理解し、1人にかかった平均の検査時間を求めることができる。
小6	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○三字の熟語の成り立ちについて理解している。 ▲第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。 ▲文と文との接続の関係を理解している。 ▲文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。 ▲事実を基に自分の意見を明確に書いている。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ○逆数について理解している。 ○分数の乗数の大きさから被乗数と積の大小関係を理解している。 ○帯分数×帯分数(約分1回)の計算ができる。 ○分数÷分数(約分2回)の計算ができる。 ○除法の性質を用いて、分数の除法をしている。 ○1より小さい分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる。 ○文章問題を解くために立式した整数÷分数の式から、正しい答えを求めることができる ○等しい比について理解している。(分数比) ○角柱の体積を求めることができる。 ○線対称な図形の対応する点について理解している。 ○点対称な図形について理解し、作図することができる。 ○図形の縮図について理解している。 ○縮図を使って建物の実際の高さを求め、その求め方を式を使って説明している。 ▲整数×小数と、整数×分数の計算に共通するかけ算の性質を判断している。
中1	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○話の内容を正確に聞き取ることができる。 ○聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。 ○司会者の工夫を聞き取ることができる。 ▲小学校で学習した漢字を書くことができる。 ▲文節・単語について理解している。 ▲文章の構成や展開をとらえることができる。 ▲意見をもとに、伝えたいことを明確にして書くことができる。 ▲3段落構成で文章を書くことができる。

	数学	<ul style="list-style-type: none"> ○比例の関係について理解している。 ○考え方の図と式を関連付けて読み取り、式が表している数量がわかる。 ▲累乗の計算ができる。 ▲負の数の除法ができる。 ▲負の数の大小関係について理解している。 ▲絶対値について理解している。 ▲1次式の減法ができる。 ▲文字式の表し方を理解している。 ▲具体的な事象の数量関係を式に表し、その関係が反比例であることを指摘することができる。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> ○対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(場所をたずねられて) ○語形・語法を理解することができる。(be 動詞の否定文) ○英文を正しい語順で書くことができる。(主語が代名詞の be 動詞の文) ▲語形・語法を理解することができる。(代名詞)(形容詞 some) ▲英文と情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。 ▲スピーチの内容をふまえて感想を述べることができる。 ▲自分の学校生活を含めて、まとまった内容で自己紹介する文を書き表すことができる。
中 2	国語	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の表現の工夫を適切にとらえることができる。 ○自分の考えを明確にして書くことができる。 ▲小学校で学習した漢字を書くことができる。 ▲歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。 ▲登場人物の心情をとらえることができる。 ▲文章の構成や展開をとらえることができる。 ▲文章の表現の特徴をとらえることができる。
	数学	<ul style="list-style-type: none"> ▲多項式の同類項をまとめる計算ができる。 ▲代入法の原理を理解し、それを使って連立方程式を解くことができる。 ▲$A=B=C$ の形の方程式を解くことができる。 ▲等式を変形して、式をある文字について解くことができる。 ▲グラフが示された 2 点を通る 1 次関数の式を求めることができる。 ▲1 次関数の式から、グラフをかくことができる。 ▲2 つの直線の交点の座標を求めることができる。 ▲説明を読み、式を変形する理由を完成することができる。 ▲連続する 3 つの奇数の和が中央の奇数の 3 倍になることの説明を完成することができる。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> ○絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(場所と動作)(時刻と曜日) ○語形・語法を理解することができる。(動名詞) ▲対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(来られるかとたずねられて) ▲英文の要点を聞き取ることができる。 ▲対話の内容を聞き取り、表をもとに英語で答えることができる。 ▲英文と情報・条件をもとに、適切なものを選ぶことができる。 ▲読み取った内容をふまえて、英文を完成させることができる。 ▲英文を正しい語順で書くことができる。(否定の命令文) ▲自分がこれから始めたいことについて、まとまった内容で説明する文を書き表すことができる。

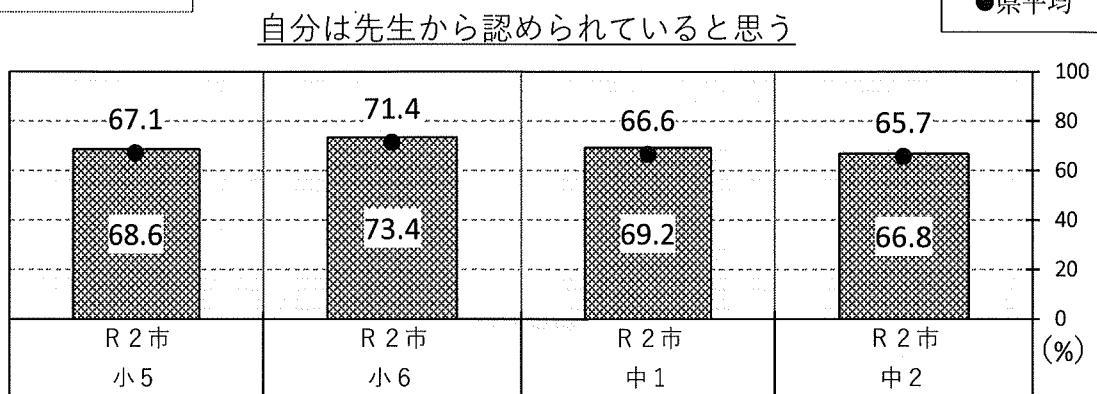
2 生活・学習に関する意識調査（児童生徒）【肯定群の割合】

【自分に関することについて】



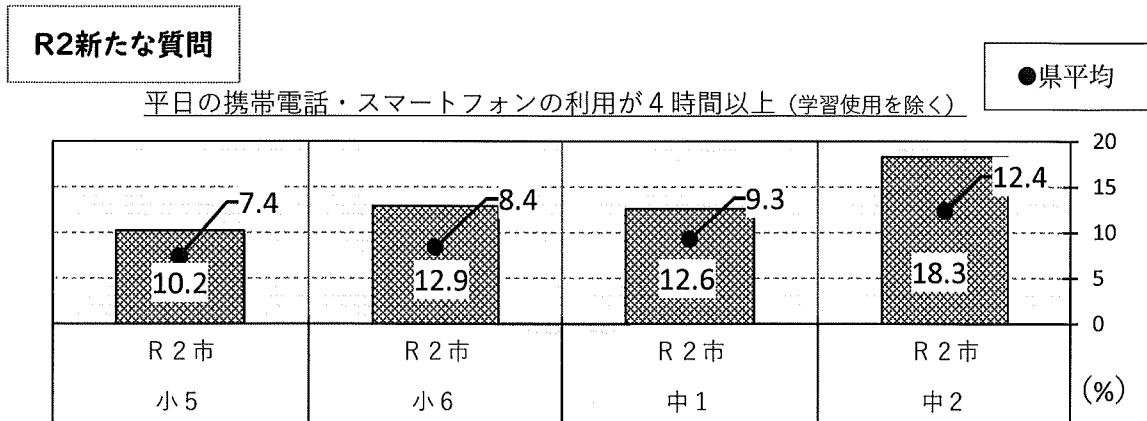
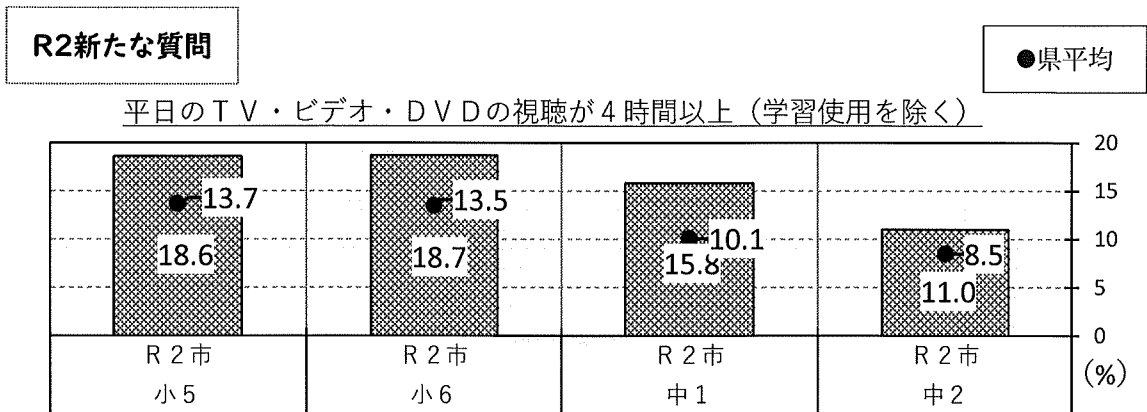
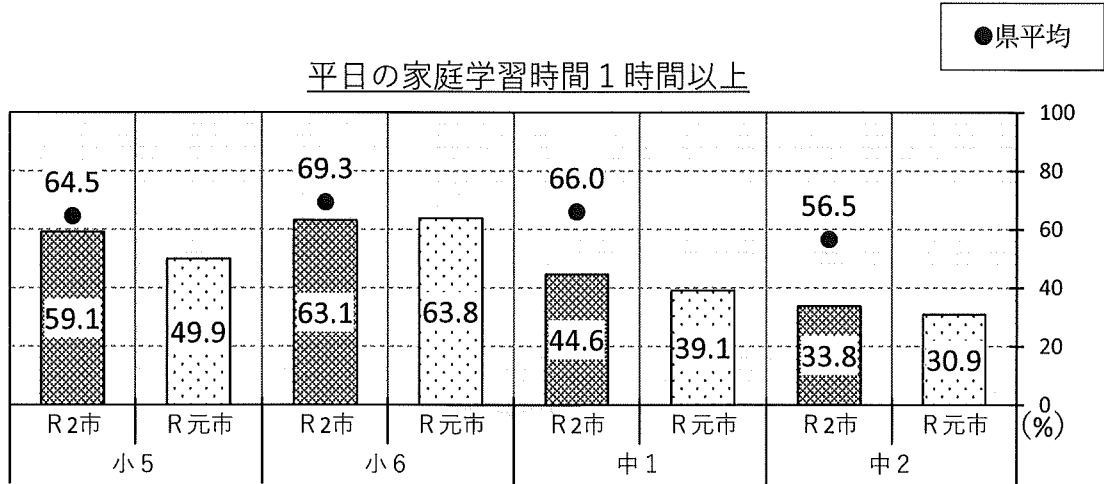
- ・全ての学年で、県の割合をわずかに下回っている。各学校において児童生徒の状況を細かく見取り、自己肯定感を高める教育を進めていく必要がある。
- ・授業や学校行事についての「振り返り」を行い、児童・生徒の一人ひとりの「伸び」や今後の「可能性」などについて考えることで、自分自身の伸びを確認できるようにしていく必要がある。
- ・全ての学年で、割合が下がっている原因としてコロナ禍において、自分のよさを実感できる場や機会が少なかったことも考えられる。

R2新たな質問



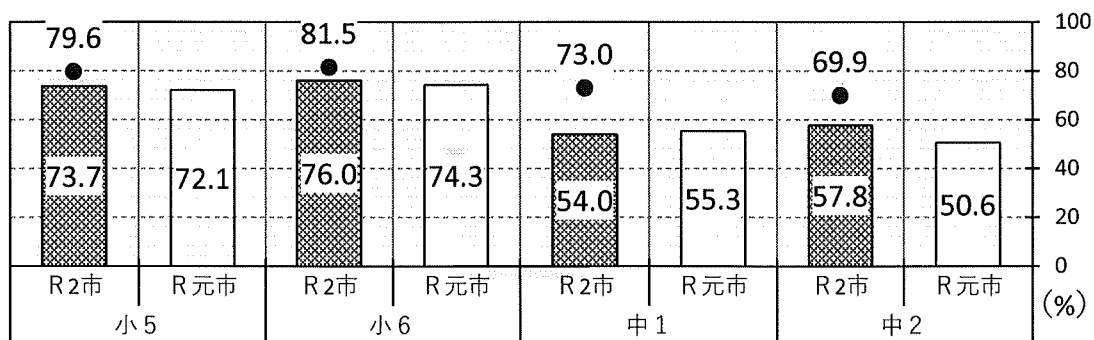
- ・全ての学年において県の割合を上回っている。今後も、教師と児童生徒の信頼関係を基盤としながら学びと育ちを支援し、益田市の教育の充実を図りたい。
- ・さらには、「自分は先生から認められている」という児童生徒の思いを教職員が意識し、児童生徒のがんばりやよさに目を向けた関わりを心がけることで一層の信頼関係の促進を期待したい。

【家庭での過ごし方】

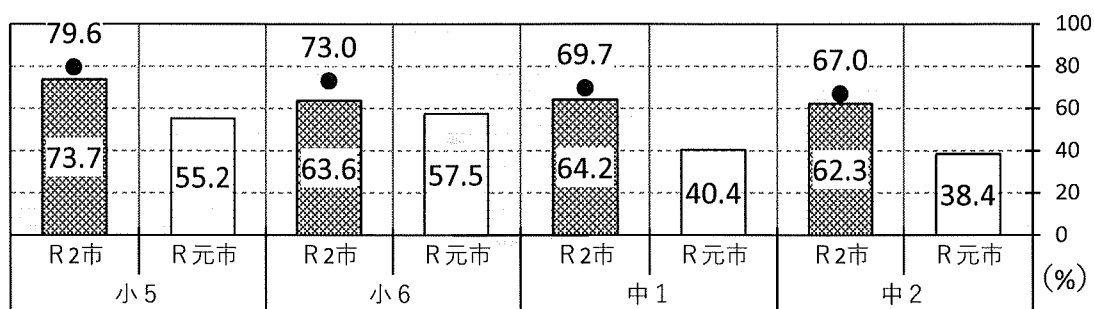


- ・ 平日の家庭学習については、調査開始以来、県平均に届かない状況である。特に中学校においては大きく下回っているが、小6を除く3つの学年においては改善傾向が見られる。
- ・ 新しい学習指導要領でめざす「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの基盤である、「学びに向かう姿勢」の涵養のためにも、中学校区での小中の取組を共有し、授業と連動した課題や探求心を高め自学へ導くような設定等の実践により一層向かう必要がある。
- ・ メディア依存の傾向が高い。令和2年度は、コロナの影響でPTA研修会等を活用して保護者等への啓発が十分できない状況であったが、令和3年度は是非実施していきたい。また、就学時健診でも保護者説明を行っており、小学校低学年からの啓発にも力を入れたい。次年度も、小中学生及びPTA対象の巡回型の情報モラル教室を予定している。
- ・ 平日のメディアに関わる時間が4時間以上の児童生徒においては、早寝・早起きといった生活習慣の乱れにつながることも予想される。心身の望ましい発達という視点において総合的な支援が必要である。

家で、だれかに言われなくても自分から勉強している

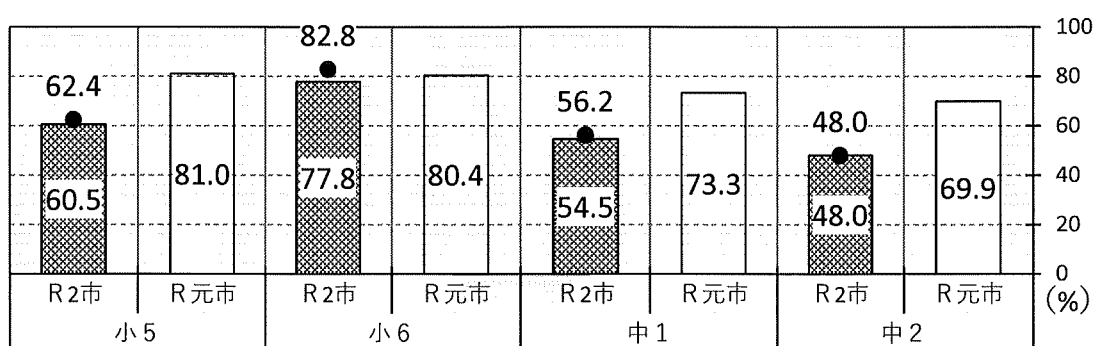


自分で計画を立てて勉強している



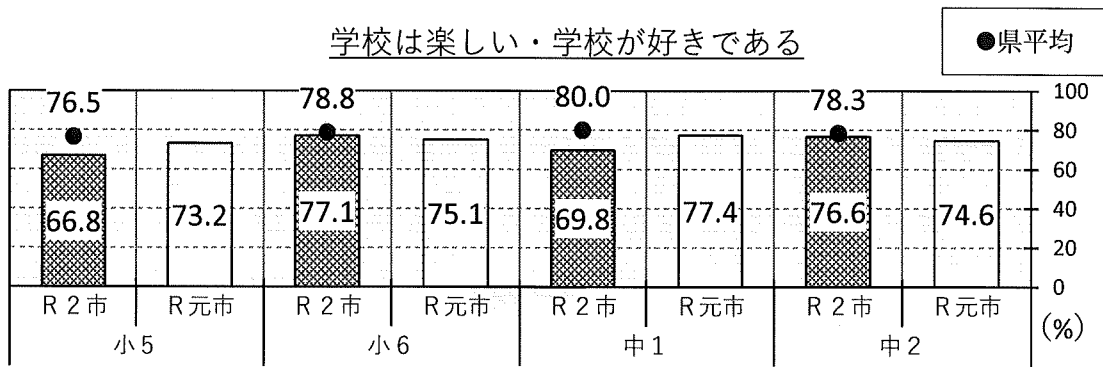
- ・【自立】や【継続】の視点で考えると上記の2つの質問に対する回答状況は大きな課題である。家庭学習時間の確保の根底として、家庭学習の意義を理解し、自らが学びの主体者となるような働きかけや環境設定を学校・家庭・地域とが協力しながら推し進めていく必要がある。
- ・「自分で計画を立てて勉強している」については、全ての学年で改善傾向にある。定着を期待したい。

地域行事に参加している



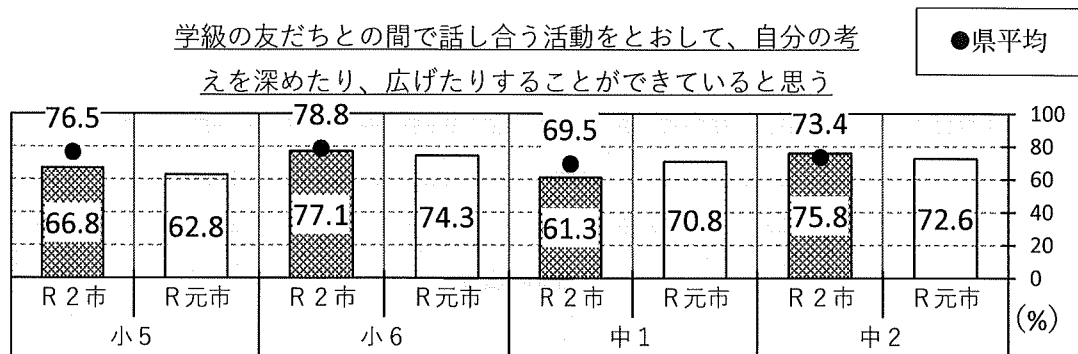
- ・令和2年度はコロナの影響で地域の行事に様々な制限が加わったため参加が難しい現状があった。益田市としては基盤は整っていると考えているので、次年度の調査結果に期待したい。

学校は楽しい・学校が好きである



- ・多くの児童生徒が学校生活を楽しく過ごしていることが窺えるものの、全ての学年において、県平均を下回っている。
- ・「アセス（学校環境適応感尺度）」の結果等とも併用しながら、児童生徒の様子を細かく見取り、適切な支援によって、安心安全な環境づくりを行っていく必要がある。
- ・県との差は中学1年生が一番大きく、「中1ギャップ」の可能性はある。春先のコロナによる休校により新しい環境へ適応できなかった影響も一因として考えられるため、引き続き同一中学校区内での小中一貫を推進するためのきめ細かな情報共有が必要となる。

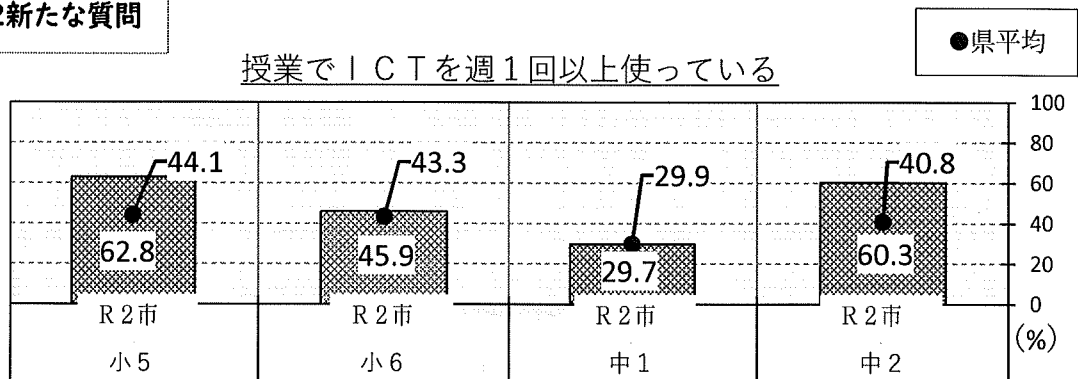
学級の友だちとの間で話し合う活動をとおして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う



- ・「主体的・対話的で深い学び」に係る設問である。中2において県を上回っており、積み重ねの成果が現れていると思われる。
- ・中1が低いのは、コロナによる人間関係づくりへの影響が大きいとも推測される。
- ・2つの設問に対する結果から「協働的な学び」と「学校生活の楽しさ」とは相関関係があると予想される。授業や学校生活において友だちと一緒に活動することのよさが感じられる経験の工夫が求められる。

R2新たな質問

授業でICTを週1回以上使っている



- ・小5、中2において、県より20ポイント程度上回っている。益田市が進めるICT環境の整備・充実が大きいと考える。
- ・令和3年 R2市 人1台端末がスタートするが、日常的な学習ツールとしてICTの活用がさらに進むことを期待したい。

V 今後の取組

1 令和3年度に向けた「学力育成プラン」の推進

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりの支援

- ・「対話」を重視した授業づくりの推進
- ・益田市定着度調査を活用したPDCAサイクルによる学校運営
- ・1人1台端末による「新しい学びのカタチ」の推進

(2) 家庭生活の充実

- ・授業と家庭学習、家庭学習と授業、授業と授業がつながる取組の推進(島根県教育委員会と連携)
- ・家庭・地域と連動したメディアコントロール、情報モラル教育の推進
- ・地域活動との連携

(3) 安心・安全な集団づくり

- ・いじめ未然防止の徹底
- ・一人ひとりを大切にした学級・学年・学校・地域づくりの促進
- ・アセスの実施と活用の推進

(4) 保・幼・こ・小・中・高が一貫した教育活動へ

- ・保・幼・こ・小接続プログラムの充実
- ・学習における小中一貫教育の推進
- ・中高連携から益田市型中高一貫教育へ

2 各種機関・団体との連携

○島根県教育委員会、益田市小中校長会、益田市教育研究会、保育園・幼稚園・こども園、益田市内各高等学校、大学、民間団体、各種企業 等